

特急「ロケットカイロス号」運行開始

和歌山県、串本・那智勝浦町、JR西日本和歌山支社が連携し、スペースポート紀伊周辺地域協議会、両町それぞれのロケットロゴマークを最前部と最後部にラッピングした特急くろしお『ロケットカイロス号』（以下カイロス号）の運行が、3月31日より開始されました。

当日、串本駅では、町長や関係者がロケットカイロスの実寸大（18m）の懸垂幕を持ってカイロス号を歓迎。また、串本町公式サポーターの人気漫画『宇宙兄弟』に扮した町職員が紀伊勝浦駅まで乗車し、ロケットグッズを配ってPRしました。乗客は「兵庫から来たが、ロケットが打ちあがるとは知らなかった。興味があるのでぜひ見たい。グッズももらえて嬉しい」と笑顔で話していました。



旧古座分庁舎 ロケットアート除幕・寄贈式

～串本町・那智勝浦町のこどもたちからの手紙でモザイクアート～

3月31日、地元有志で結成された「和歌山ロケット応援団」によるロケットモニュメントとモザイクアートの寄贈式が旧古座分庁舎2階で行われました。

「ロケット関係者を応援しよう」と同応援団が計画したこの取組み。スペースポート紀伊からのロケット打ち上げをイメージしたモザイクアート（縦1.8m、横2.4m）は、串本町・那智勝浦町の小学生646名から寄せられた「応援メッセージはがき」を縮小し並べて作られたもので、木片でロケット打ち上げを表現したモニュメントは、地元の木材店から提供を受けた紀州材を切り出し、串本町内外の家族等約50名と共に制作されました。

寄贈式で、青木圭団長は「ロケット情報発信の拠点となる旧古座分庁舎に寄贈し、皆さんにご覧いただける場所となれば」と挨拶。児童からメッセージを受け取ったスペースワン(株)の村部昭憲課長は「応援があると力が出る。こんなに嬉しいことはない」と感謝の思いを伝え、田嶋町長は「ロケットにかける夢や思いが詰まっていると感じた。夢が叶うよう頑張るので応援してほしい」とこどもたちへ呼びかけました。制作に携わった児童は「出来上がりを見ると達成感がある。大勢の方に見てもらえて嬉しい」と話していました。

